

講演 2 歯科領域診療ガイドライン作成経験者からの提言：  
主にパネルへの患者代表の参加について

=====

佐藤一道（公益社団法人日本口腔外科学会学術委員会  
口腔癌診療ガイドライン改訂小委員会委員，  
東京歯科大学 オーラルメディシン・  
口腔外科学講座准教授）

【抄 録】

診療ガイドラインのパネル会議の準備を担当する機会を持ちました。今回は、この準備に関して報告をさせて頂き、感想を述べたいと思います。

利益相反の申告はパネリストにとって大事な要件です。そして経済的なものと同様、学術的な利益相反も大事とされているようです。医療提供者が自分の専門分野の治療を重要と考えるように、医療消費者も自分が経験した治療を重要と考えることは、配慮すべきと感じました。またパネリストは、診療ガイドラインの作成方法やシステムチェックレビューといった資料の他に、検討する医療内容も理解しなければなりません。この点、医療提供者より医療消費者の負担は大きいかもしれません。ただ私の経験した会議では、医療消費者は積極的に会議に向きあわれており、大きな問題を感じませんでした。診療ガイドラインの作成前に勉強会や研修会を行うことに、大きな意義があったと思います。

医療提供者、医療消費者ともにパネリストとして大事な要件は、時間と意欲であることも改めて感じています。どうか、皆様から忌憚ない御意見を頂きたく思います。

【略 歴】

1998年 東京歯科大学卒業  
2002年 東京歯科大学大学院歯学研究科（オーラルメディシン学専攻）修了  
2004年 東京歯科大学オーラルメディシン講座 助手  
2008年 東京歯科大学口腔がんセンター 助教  
2010年 東京歯科大学口腔がんセンター 講師  
2016年 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座 准教授

【著書・論文等】

- ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置に関する診療ガイドライン：睡眠口腔医学，1：4～27，2014
- ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置に関する診療ガイドライン（2017年改訂版）：  
<http://jadsm.jp/iryo/guideline.html#guideline>

【学会活動等】

- ・日本口腔外科学会 学術委員会 口腔癌診療ガイドライン改訂小委員会委員
- ・日本睡眠歯科学会 理事・診療ガイドライン作成WGメンバー

（2018年2月13日（火）原稿受理）



診療ガイドラインの作成に  
医療消費者・患者の参加は  
どのような効果をもたらすか？

「歯科領域診療ガイドライン作成経験者からの提言：  
主にパネルへの患者代表の参加について」

佐藤 一道

東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座

- ・ 診療ガイドライン作りに関わることになった背景  
2012年12月16日 に行った日本睡眠歯科学会のパネル会議
- ・ 2016年 9月22日 に行った2回目のパネル会議
- ・ 口腔癌診療ガイドライン改訂作業のパネル会議

(2018年4月1日予定)

- ・ パネル会議の準備を担当しての感想

## \* 診療ガイドライン作りにかかわることになった背景



日本睡眠歯科学会 (JADSM)  
The Japanese Academy of Dental Sleep Medicine

### 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する 口腔内装置に関する 診療ガイドライン

(日本において睡眠医療を担当する医師、歯科医師向け)

#### クリニカルクエスチョンと推奨

##### クリニカルクエスチョン：

「閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者に対し、口腔内装置治療を行うと、他の治療と比較して、閉塞性睡眠時無呼吸症候群は改善するか」

##### 推奨：

「口腔内装置の使用を閉塞性睡眠時無呼吸症候群の患者に推奨する。ただし、経鼻的持続陽圧呼吸療法(以下CPAP)が適応となる症例に関しては、CPAPを適応し、CPAPを使用できない場合、口腔内装置の使用が望ましい。」(GRADE 1 B：強い推奨/エビデンスの質「中」) 論文検索：2012年4月16日

【注意：口腔内装置の有用性は確認されたが、本文は患者がCPAPを使用できないとした際に、安易に口腔内装置へ治療方針を転換することを推奨したものではないとの強い意見が1名のパネリストからあった。すなわちCPAPが使用できない場合、CPAPが使用できない原因を追及し、それを除く対応は検討されるべきであるとした意見である。】

## \* パネル会議の 準備を担当しての感想



- 医療消費者のパネリストにも、  
学術的利益相反に配慮することは大事であると感じた。
- 作成開始前の診療ガイドラインに関する、  
研修会・勉強会は大きな意義があると思う。
- 透明性、公平性のためにも医療消費者の参加は必要と思う。